

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓である「自主自律」「和親協力」を背景に、変化の激しい時代に対応できる人材を育成し、生徒・教員がともにチャレンジする学校をめざす

- 1、基礎学力の定着を背景に、広い教養を身につけた上で、健全な議論や思考ができる人材を育成する。
- 2、急速に進むグローバル化に対応する英語教育を根幹とした新しい国際教育を研究・開発・展開する。
- 3、自由な校風と自主自律・和親協力を背景に、学習と部活・行事の両立をはかる。

2 中期的目標

1、学力の向上

- (1) 学習習慣の定着を図る。

- ア. 高校生として必要な基礎学力の定着とその方法を認識するためのシステムの開発を進める。
- イ. 学年・教科の壁を越えた学校としてのスタンダードを開発し、明確に示す。

※効果検証 学力生活実態調査の結果： 【実績】平成 27 年度…入学時 A3 以上が 268 名→高 3 のスタート段階が 65 名

【入学時】 A3 以上 287 名 (H28)、294 名 (H29) 【高 3 のスタート段階】 20 名 (H27)、47 名 (H28)

【目標】2019 年度…入学時 A3 以上が約 305 名→高 3 のスタート段階が約 100 名を維持

- (2) 教員育成のための研修・勉強会を実施し、統計資料を担保とした効果検証を行い、フィードバックを厳しく行う。

- ア. 上記 (1) を実現するために、検討された内容を教科横断的な研修・勉強会を通じて、検討・定着を進める。
- イ. 検討された上記 (1) について生徒アンケートや模擬試験などの結果から効果検証を行い、フィードバックを行う。

※効果検証 授業満足度について、保護者アンケートにおける「よくあてはまる」を平成 29 年度 20.5%→2020 年度 25%

- (3) 上記を実現するために必要な学校組織の業務運営の整備を進める。

- ア. 上記 (1) (2) を達成するために、スクラップアンドビルドを認識し、必要な業務内容を精選する。
- イ. 特に、カリキュラム改変に伴う諸問題を解決しながら、教員が生徒とかかわれる時間を確保する。

2、グローバル時代に対応する教育システムの開発

- (1) 4 技能を中心とした英語教育の改革を行う。

- ア. 「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、新しい英語教育システムを実施する。
- イ. 外部との連携を図り、生徒とともに本校教員も学び続ける

- (2) 上記 (1) の実現に必要なスキルであるロジカル・クリティカルシンキングを理解・実践する。

- ア. スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。
- イ. 開発したツールを使用するための授業方法として、まずは日本語のディベートやプレゼンテーションなどを行う。

ウ. ロジカル・クリティカルシンキングの理解・実践を通常授業の中に取り入れるために、各教科で議論を始め、継続する。

- (3) 海外留学生の受け入れ態勢を整備し、海外語学研修や国内キャンプ・修学旅行などの機会を充実させる。

- ア. より多くの留学生に来訪を促し、本校生徒との交流の機会を増やすシステムを開発する。
- イ. 海外語学研修や修学旅行については、事前事後の学習を通じて実感を通じた理解を進める。

- (4) 国際科 (グローバル科) 開設にあたり、さらなる英語教育の充実を図る。

- ア. 外部評価として英語学力調査を導入する。
- イ. 「グローバル人材育成委員会」を中心に、箕面高校ならではのカリキュラム等を構築する。

1 年生時 Listening, Writing, Reading 目標					
H30		2019 年度		2020 年度	
B1	1 名	B1	2 名	B1	3 名
A2	70 名	A2	75 名	A2	80 名
A1	350 名	A1	360 名	A1	370 名

2 年生時 Listening, Writing, Reading 目標					
H30		2019 年度		2020 年度	
B1	8 名	B1	9 名	B1	10 名
A2	150 名	A2	155 名	A2	160 名
A1	350 名	A1	360 名	A1	370 名

3、進路・生徒指導の強化

- (1) 進路実現のために必要なシステムの開発を行う。

- ア. 国公立大学への進学実績を伸ばす。
- イ. 海外大学への進学をめざすシステムを構築する。

※効果検証 ア：平成 29 年度 62 名を 2020 年度 100 名にする。

イ：2020 年度は、海外大学進学希望者に対する合格者の割合として合格率 75% 以上をめざす。

- (2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。

- ア. 基礎的な生活習慣の定着を進める。
- イ. 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。

※効果検証 ア：年間遅刻者数を平成 29 年度約 4500 件を、2020 年度には約 3000 件まで減らす。

イ：自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」2020 年度には 78%以上にする。

- (3) 地域との連携を意識し、様々な機会を通じて、情報発信と協働を行う。

- ア. 部活動を中心に地域のイベントへの協力などを進める。
- イ. ホームページ等の電子媒体及び紙媒体の情報発信の充実に努め、本校を希望する方々や同窓生の方々への理解の向上をはかる。

※効果検証 イ： HP 更新回数 H30 30 回以上 → 2020 年度 70 回 及び

学校教育自己診断「ホームページをよく見る」における平成 29 年度 16.9% → 2020 年度 50%

4、学校経営推進費事業の活用

- (1) 平成 26・27・28 年度の上記事業を活用して、以下の事項に取り組む。

- ア. 主体的・対話的な授業展開ができることを目的に、図書室の活用をはじめ、各教室の環境整備を図り、新しいメソッドの浸透を進める。
- イ. 改修された職員室を経営戦略室の位置づけとして、意見交換を進めるスペースに変えていく。
- ウ. 自習室・進路指導室の機能向上を図るとともに、教職用 ICT 機器の充実と研修体制 (特に若手の育成) の確立を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																																
学力の向上	<p>(1) 学習スタンダードを作るための基盤整備</p> <p>(2) 教員育成のための研修・勉強会の立ち上げと整備</p> <p>(3) 学校組織の整備</p>	<p>(1) 学習スタンダードを整備するための素材集め及び議論を始める。</p> <p>(2) 上記(1)を遂行するために、新採者育成を含めた若手教員育成勉強会を5月より首席を核に、教科横断的に毎月1回の頻度で実施する。また、授業アンケート(7、12月)の課題把握と成果検証を明確に行い、フィードバックを明確にする。</p> <p>(3) カリキュラム改変に伴い、学力がより一層向上するよう、学校組織における分掌・委員会を整備し、人事計画については中長期の視点に立った人材配置を行う。</p>	<p>(1) 本年度中にスタンダードの骨子の完成をめざし教科での議論を始める。</p> <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強会方針の完成 新採者人材育成ルートマップの完成 学習指導の保護者アンケートにおける「よくあてはまる」20.5%→22% <p>(3) 本校の学校教育自己診断における全般に関する質問で肯定感83.5%→90%以上(生徒) 教職員の学校組織に関する質問の肯定感61%→75%(教職員)</p>																																	
グローバル時代に対応する教育システムの開発	<p>(1) TOEFL iBTを中心とした英語教育の改革を行う。</p> <p>(2) 上記(1)の実現に必要なスキルであるロジカル・クリティカル・シンキングを理解・実践する。</p> <p>(3) 海外留学生の受入態勢を整備し、海外語学研修や修学旅行の機会を充実させる。国際科(グローバル科)開設にあたり、さらなる英語教育の充実を図る。学校広報システムの確立</p>	<p>(1) 国際グループを中心に、GTECの現状分析と課題の把握、今後の方向性と課題解決策の策定作業を英語科とともに取り組む。また、「箕面シラバス」に関して、特設レッスンの内容を通常授業に展開し、成果検証を実施する。</p> <p>(2) 具体的な思考ツールの開発については、他校や企業などで使われているノウハウを吸収・研究し、本校にあったカリキュラムを構築する。</p> <p>(3) 「海外留学生受入方針」を明確に整備し、具体的な教育目標と数値目標を設定する。また、海外語学研修については、内容を再検討し、品質が低下しないようにする。</p> <p>(4) ア. 成果指標の新たなツールとして英語学力調査を新入生全員に受検させる。 イ. 「グローバル人材育成委員会」を中心に、箕面高校ならではのカリキュラム等を構築する。</p>	<p>(1) 以下の内容の完成と遂行をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 骨太英語について「箕面シラバス」の共有を進める。授業アンケート項目8、9について、3.25。(H29;3.17、2回目) <p>(2) 上記(1)の内容と重複する。</p> <p>(3) 以下の遂行をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外語学研修の更なる内容検討と整備 事後アンケート満足度90% <p>(4) 以下の遂行をめざす。 ア. 英語学力調査全員受検</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">Listening, Writing, Reading 目標</th> </tr> <tr> <th colspan="2">1年生</th> <th colspan="2">2年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B1</td> <td>1名</td> <td>B1</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>A2</td> <td>70名</td> <td>A2</td> <td>150名</td> </tr> <tr> <td>A1</td> <td>350名</td> <td>A1</td> <td>350名</td> </tr> </tbody> </table> <p>Speaking 目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">1年生</th> <th colspan="2">2年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Grade6~Grade7</td> <td>2名</td> <td>Grade6~Grade7</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>Grade4~Grade5</td> <td>50名</td> <td>Grade4~Grade5</td> <td>55名</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ. 「21世紀型能力」カリキュラムを開発し、周知する。(年内)</p>	Listening, Writing, Reading 目標				1年生		2年生		B1	1名	B1	8名	A2	70名	A2	150名	A1	350名	A1	350名	1年生		2年生		Grade6~Grade7	2名	Grade6~Grade7	5名	Grade4~Grade5	50名	Grade4~Grade5	55名	
Listening, Writing, Reading 目標																																				
1年生		2年生																																		
B1	1名	B1	8名																																	
A2	70名	A2	150名																																	
A1	350名	A1	350名																																	
1年生		2年生																																		
Grade6~Grade7	2名	Grade6~Grade7	5名																																	
Grade4~Grade5	50名	Grade4~Grade5	55名																																	
進路・生徒指導の強化	<p>(1) 進路実現のために必要なシステムの開発を行う。</p> <p>(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。</p> <p>(3) 地域との連携を意識し、様々な機会を通じて、情報発信と協働を行う。</p>	<p>(1) 学年・教科での認識の差をできるだけ少なくするために、進路指導室を中心に定期的な研修などを行う。</p> <p>(2) 生徒会を中心とし、今まで構築してきた生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化されたものを検討していく。</p> <p>(3) 総務Gを立ち上げ、国際グループや骨太英語、部活動などを通じ、地域との連携を整備、強化していく。特にホームページに関しては、組織的な情報発信を行う。また、校内・校外美化の継続的な実施と地域との連携を進めていく。</p>	<p>(1) 以下の内容の完成と遂行をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者 平成29年度62名→75名 海外大学への進学 平成29年度11名→合格率50% <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。</p> <p>ア) 箕面高校進路指導システムの構築と徹底。遅刻者数 4591名→4000名以下。</p> <p>イ) 生徒会・行事における基本方針の作成 自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」75%以上(H29 72.8%)</p> <p>(3) 以下の内容の完成と遂行をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の保護者アンケートにおけるホームページ閲覧に関する質問での肯定率 H29 29.5%→35%。HPの部分的改変及びHP更新回数年間30回以上。 																																	
学校経営推進費の活用	<p>(1) 平成26・27・28年度の上記事業を活用して、以下の事項に取り組む。</p>	<p>ア. 主体的・対話的な授業展開ができることを目的に、図書室の改修をはじめ、各教室の環境整備を図り、新しいメソッドの開発を進める。</p> <p>イ. 国際科(グローバル科)設置に伴い職員室の改修を図り、経営戦略室の位置づけとして、意見交換を進めるスペースに変えていく。</p> <p>ウ. 自習室・進路指導室の機能向上を図るとともに、教職用ICT機器の充実と研修体制(特に若手の育成)の確立を図る。</p> <p>エ. 以上をもとに、各分掌、学年において負担軽減策を考え実践する。</p>	<p>ア. 改修した図書館の積極的な活用をめざす。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 図書館の授業における稼働率をあげる。(H29:36%→40%) ② 図書館の来館者数を増やす。(H29:6.1名/1日→7.5名/1日) <p>イ. 職員室の改修、合同準備室の整備による教員間のコミュニケーションの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の教員アンケートにおける学校組織、教育活動についての話し合いに関する質問の肯定率 H29 60%→65% <p>ウ. 次世代を担う人材を育成するために、職員室におけるミドルリーダー研修の実施とそれに伴う意見交換会の実施(年間5回程度実施予定)</p> <p>エ. 各教員の月別時間外勤務時間の年間平均時間 H29 32.8時間→30時間以下</p>																																	